

うみねこ学級 生活単元学習指導案

期 日 平成28年11月2日(木) 5校時
場 所 音楽準備室
児 童 男子3名 女子0名 計3名
指導者 T1 高橋 和江 T2 支援員

1 単元名 「アイロンビーズランド」

【目指す児童の姿】

- アイロンビーズ作りを通して、自己決定をしながら作りたいものを作ることができる。
- 作る作業に集中し作品を完成させる。
- 活動が主体的にできる。

【取り入れる主なUDの視点】

- 1-③ 興味・関心を高める工夫
- 2-③ 支援の仕方を工夫
- 4-④ 実態に合わせた対応

2 単元について

(1) 児童について

本学級の児童は、6年、4年、3年と学年が様々であり、特性も様々である。時折、自分の意見を通そうと気持ちがぶつかることもあるが、うみねこ学級内での遊びややりとりはよく行われている。それぞれの交流学級での学習生活時間もあり、うみねこ学級以外にも友達がいるが、遊びに入るのは受け身であったり、限られている特定の友達とだけ遊んだりするなど、日常生活において、自己実現のために、自己決定することに消極的な面がある。

また、学習の集中や意欲においても、ばらつきがみられる。興味がある内容については、個別に学習を進めることができるが、興味がない時や、見通しがもてない時は、意欲が大きく落ちてしまう。長い時間、集中して学習するのも難しい面がある。新しい学習内容に入るときなどは、見通しをもちやすくして、楽しい雰囲気を感じられるように工夫が必要となる。

本単元に関わる、個別の実態は次の通りである。

	自己決定について	学習への集中力	意志表示について	行動特性について
A 児 6 年	図工の自由な発想など、自分で決めたり選んだり吟味し、かなり時間がかかる。迷うと、「先生が決めて。」と言うことも多い。	個別学習を落ち着いてできる。作業は、30分間位続けられる。学習も、個別ではよく話を聞いている。	分からない時や困った時に、他者に話しかけ聞くことが難しい。分からないと、イライラしてしまうときがある。	手先が器用で、細かい作業が良くできる。集団に入るのに緊張してしまい、見られることが難しい。他者の目を気にして行動が萎縮してしまうことがある。
B 児 4 年	図工など、自分の発想を持ち作りたいものが浮かぶときが多い。こうしたいという思いと、自分の力のギャップが有る。困った時は、教師の意見を尋ねることができる。	話を聞くことが苦手。個別学習では、せきたてられるように、早く進めようとする。45分間集中すると、次の学習に影響がある。完成するまで続けて作業しようとする。	困ったときには、教師や友達に声をかけることができる。意欲的に発言をしようとするところがある。イライラすると、攻撃的なことばを発してしまう。	見本と同じ色にしようとするなど、完成度の高い物を作ろうという意識が強い。家の方に、作品を見せたい、あげたいという意欲が大きい。待つことが苦手である。
C 児 3 年	図工などでは、自分の発想を広げ、好きなものを作っている。自己決定できることも多いが、楽な方を求めてしまうことが多い。	調子が良ければ、離席せずに学習に臨める。概ね、15分くらいは集中できる。気持ちが下がると、学習の量を気にして、減らそうとする。	困ったときには、教師に声をかけることができる。意欲的に発言しようとするときと、意欲が落ち、絶対に話そうとしないときがある。	休み時間は一人で、好きなことをするか、大人と遊ぶことを好む。身近な大人に、作品を見せたいという気持ちが大きい。気持ちが乱れた時には、離席するので、クールダウンすることが必要となる。

このような実態から、作業的な学習を通して自信をつけ、お互いを認め合うことにより、交流学習では、活動に消極的でも、3人ならではの交流を通し、さらに良好な関係を深めたい。共同作品を作成、展示することにより、周囲からも認められる機会としたいと考えた。

(2) 単元について

児童は、これまでも、アイロンビーズ作りに取り組んできた。昨年度は国旗作りに夢中になり、今年度はキャラクターのような難しいものを意欲的に作っている。アイロンビーズは、ビーズの組み合わせにより思った通りの物が作りやすい。出来上がってから飾ることで、活動を振り替えられる。作成が楽しみになり、様々な学習の意欲付けとなってきたと言える。そこで、興味をもっている活動を通して、自分の作りたいものを作る中で、自己決定をする場面を設け、作りたいものを作り上げることが一つの大きな作品づくりにつながることで自信をもたせたい。作品作りに集中することで、自己を知り調整できるような機会にしたいと考えた。作業の中で、意思表示を組むことで、他者につながるスキルを高められると考え本単元を設定した。今後は、作品を見てもらえるよう活かしたり、誰かにあげたりすることで、他者とのつながりをもたせるきっかけとなれればと考えた。

(3) 指導にあたって

本単元の指導に当たっては、興味、関心を高めるために、これまで作り貯めた作品から、「アイロンビーズランド」という大きな共同作品のテーマを掲げ、それを拡大していくことをねらいたい。目的にあたっては、アイロンビーズを使った作品を「アート作品」として「アートランド」という場に飾り、多くの方々にみて頂きたい。アイロンビーズ作りでは、必要に応じて、iPadを使い、作りたい物の図案の手がかりを得られるようにして作業を進める。作る中で、手伝いの必要な場面は、緊張が高まることが考えられるが、主な支援をTTで分担し、見守りながら、児童が主体的に教師に対して、声掛けや、サインによる支援を得るための発信ができるようにしたい。また、作業時間については、目標時間を個別に組むことで、個々の目標を明確にし、達成感が得られるようにしたい。その中で、活動に区切りをつけていくことで行動をコントロールし、楽しい気持ちを持ったまま作業にあたれるようにしたい。

3 単元の指導目標と評価規準

	目 標	評 価 規 準
A 児	○作ったものを活かすという視点で、作りたいものを決めることができる。 ○手伝いが必要なときや完成したときに、教師に声をかけるかサインを出すことができる。	○目的に沿って、作りたいものを検索し、選択することができる。 ○必要なときに、教師や友達に声をかけるかサインを出すことができる。
B 児	○活動に区切りをつけながらも、集中力を持続し、時間内だけ作業することができる。 ○手伝いが必要なときは、声をかけるが、できるだけ自分で完成させることができる。	○時計を活用しながら、集中力を持続し、時間内だけ作業することができる。 ○必要なときに、教師や友達に声をかけることができる。
C 児	○自分の作れる範囲で、集中して作りたいものを作成することができる。 ○ビーズの配列において、教師に支援を受けながら、作り上げることができる。	○時計を活用しながら、最後まで作品作りに集中する。 ○活動で迷ったときや完成時に、教師に声をかけることができる。

4 学習指導計画（全10時間）

【指導過程】	【主な学習活動】	【取り入れるUDの視点】
第1次 アイロンビーズ作品で遊ぼう。（2時間）	①②作ったアイロンビーズをどうしようか？ これまで作った作品を展示してみる。	1-③ 興味・関心を高める工夫
第2次 アイロンビーズ作品を作ろう。（6時間）	③④⑤⑥⑦⑧（本時） ・何を作るかの計画を立てる。必要な物を考え、作る準備をする。 ・作りたいものを紹介し合い、アイロンビーズを作る。 ・アイロンビーズ完成させ、組み立てる。	2-③ 支援の仕方を工夫
第3次 アイロンビーズ作品を紹介しよう。（2時間）	⑨⑩アイロンビーズランドを紹介しよう。	4-④ 実態に合わせた対応

5 本時の指導（8/10）

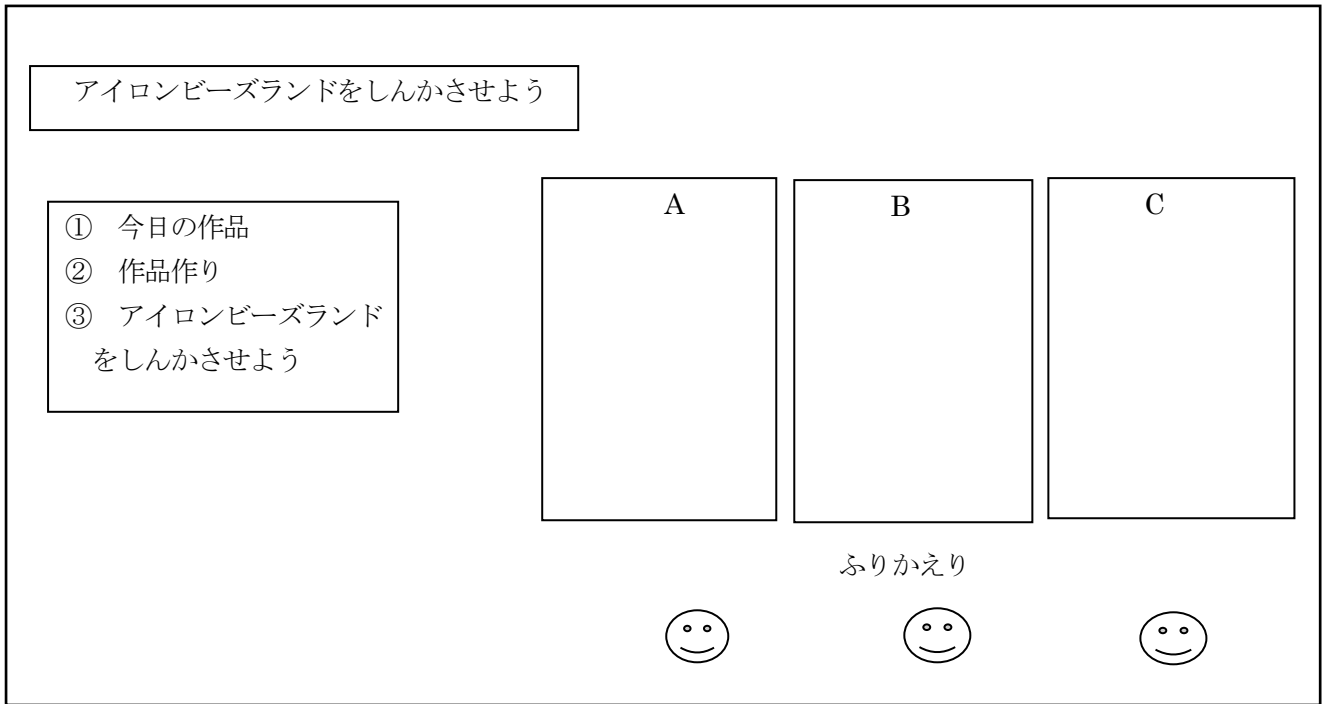
(1) 目標と評価規準

アイロンビーズを作る作業に集中し、完成するために必要な活動が主体的にできる。								
具体の評価規準 <table border="1" style="width:100%; border-collapse: collapse;"> <thead> <tr> <th style="width:33%;">A児</th> <th style="width:33%;">B児</th> <th style="width:33%;">C児</th> </tr> </thead> <tbody> <tr> <td> ・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけるかサインを出すことができる。 </td> <td> ・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。 </td> <td> ・支援を得ながら、アイロンビーズ作品作りを最後まで飽きずにできる。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。 </td> </tr> </tbody> </table>			A児	B児	C児	・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけるかサインを出すことができる。	・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。	・支援を得ながら、アイロンビーズ作品作りを最後まで飽きずにできる。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。
A児	B児	C児						
・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけるかサインを出すことができる。	・アイロンビーズ作品を作る作業に集中し、意欲的に作る。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。	・支援を得ながら、アイロンビーズ作品作りを最後まで飽きずにできる。 ・手助けが必要なときは、声をかけることができる。						

(2) 展開

段階	学習活動	学習内容	指導上の留意点 (○) UD の視点による手だて (★・) 評価
導入 (10)	1 今までの活動を振り返る。 2 今日の学習内容の見直しをもつ。 (1) 学習課題を確認する。 <div style="border: 1px solid black; padding: 5px; margin: 5px 0;">アイロンビーズランドをしんかさせよう。</div> (2) 学習の流れを確認する。 ①自分の今日作る作品について紹介する。 ②作品を作る。 ③作った作品を飾る。	・これまで作ったアイロンビーズランドを振り返る。	★1-③ 興味・関心を高める工夫 ・前時までの活動を見て、本時の学習への意欲につなげるようにする。 ○活動の見通しがもてるようにする。 時間のめどを示し、時間で終わるようにする。
	2 学習課題を解決する。 (1) 今日は、どんなものを作るのか紹介する。 (2) 作品を作る。 (3) できた作品を組み立て、ランドに飾る。もしくは、映像を見せる。	○作る物を決めて説明する。 ・飾って楽しむ作品。 ・誰かに見せる、ストーリー映像作品。 ・誰かにあげる作品。 ○集中して作業する。 ○必要な物を選んで作る。 ○手助けが必要な時に行動を起こす。 ・アイロン作業や、必要に応じて困ったことなど、教師や友達に声をかけながら作る。	★2-③ 支援の仕方を工夫 ・作品を作る目的を一人一人の願いに沿って、選べるようにする。 アートランド・・・飾って楽しむ作品 ・・・映像作品 ★4-④ 実態に合わせた対応 ・進み具合や、難易度によって手伝う。 主としてT1が、A B児に、主としてT2がC児のサポートを行う。
	〈評価〉 A児 作業に集中し、作品を最後まで完成させようとしたか。	〈評価〉 B児 作業に集中し、作品を最後まで完成させようとしたか。	〈評価〉 C児 励ましを受けながらも、作品を最後まで完成させようとしたか。
終末 (5)	3 学習の振り返りをする。 (1) 学習課題について (2) 自分や友達のよさについて 4 次時の学習内容を確認する。	○挙手や発言によって振り返る。	○支援員からもよさを紹介し、自信につなげる。 ○渡したいという意欲につなげる。

(3) 板書計画



(4) 会場計画

